

金澤大学所蔵キンストレーキの解組と 新たに確認されたオランダ語・日本語ラベル

月澤美代子

順天堂大学医学部医史学研究室

1. はじめに

金澤大学に保存されてきた紙塑人工体、すなわち、金澤大学所蔵キンストレーキ（以下、金澤キンストレーキと略述する）が、金澤大学によって、2008年3月から2年間を費やして解組・修理された。解組・修理にあたったのは奈良国立博物館にある(財)美術院工房の文化財修復の専門家たちである。

解組・修理の決定に先だって、2007年暮、論者は金澤大学医学部から金澤キンストレーキの歴史的な資料価値についての意見を求められた。また、解組・修理決定後、論者が以前作成した『福井市立郷土歴史博物館所蔵キンストレーキ調査報告書』（2006年3月刊）を参考資料として使用する許可を求められ快諾した。

2009年3月6日～7日、(財)美術院、奈良博工房において全身体部位が解組され写真撮影が行われた。この時、立ち会わせていただいた論者は美術院工房の古谷建治氏から残存ラベルと符号表との対照を中心として調査協力を求められた。今回、論者自身が関与した、その調査結果の一部について報告したい。

2. Auzoux 符号表との対照結果

修理以前においては、カビ、埃が内部にまで広がり、ラベル等の読み取りもしにくい状況であった。しかし、この点を除いては保存状態は極めて良好であり、欠失部分は少なく、また、損傷部分も少なかった。当初、脳のパーツは欠失していたが、別資料として保存されていた頭部模型が、この人体模型の一部であることが解り内部に組み込まれた。

金澤キンストレーキにはラベルが良く保存されていた。残存しているラベル記載は、Auzoux 1857年符号表と完全に一致し、この結果、金澤キンストレーキが1857年型の男性全身体モデル‘Modèle de l’homme clastique complet, de 180cent’であることが確認された。全体を構成する92のパーツのうち、86のパーツが確認され、欠失部位は6パーツのみであった。

3. 日本で追加されたと思われるラベルについての検討結果

今回の解組の結果、次の新しい事実が明らかになった。すなわち、筋肉パーツのいくつかに日本で付けたと思われるラベルが貼られており、左上腕の7パーツに計11個、頭部の1パーツに2個が確認された。同一の紙質の長方形の用紙にインクを用いたオランダ語筆記体と旧字体の漢字で解剖学名の記載が行われており、それぞれ同一人の筆跡と思われる。和訳は、ほとんどオランダ語からの直訳である。

まず、オランダ語表記に関して、J.A. Fles, Handleiding tot de stelselmatig beschrijvende ontleedkunde van den mensch, Utrecht, 1866.との比較検討、および、小城鍋島文庫所蔵『人工体普録』（松田清、佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要, vol. 1, 2007に掲載）との比較検討を行ったが顕著な一致は認められなかった。また、日本語表記に関して中欽哉訳述『布列私氏解剖図譜』（明治5年、陸軍文庫）、田口和美『解剖攬要』等、明治初頭の解剖学翻訳書内の解剖学名との比較検討を行ったが一致するものは認められなかった。明治2（1869）年、長崎でキンストレーキを購入し金澤に携えて来たと言われる黒川良安や、金澤で系統解剖学の講義にあたった横井三柳ら、オランダ語に堪能な日本人が自ら作成した日本語解剖学名であり、スロイスらによるオランダ語を使用した講義にこのキンストレーキが活用されていたことを裏付けるものであるというのが、論者の暫定的な検討結果である。